

関係性の未来

世界水恐慌勃発中！ そのとき日本は…!?!

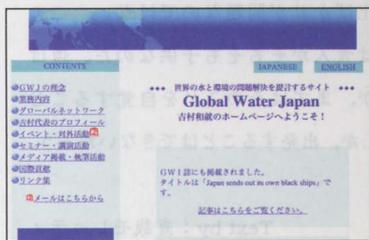
クライシス？



吉村 和就 よしむらかずなり

グローバルウォーター・ジャパン (GWJ) 代表 国連テクニカルアドバイザー

1948年生まれ、秋田県秋田市出身。大手エンジニアリング会社から国の要請により国連ニューヨーク本部・経済社会局へ勤務。環境審議官として発展途国の水インフラ指導を行う。'01年、NY同時多発テロ後帰国。'05年GWJ設立。日本を代表する水環境問題スペシャリストとして、国連本部勤務の経験を踏まえ、数々の国際会議を通じて日本の環境技術を世界に広め続けている。またG8北海道洞爺湖サミットへの参加、水の安全保障戦略機構・執行審議会委員など国の水政策にも深く関わっている。



<http://gwaterjapan.com/>

今、世界で「21世紀の石油」といわれる貴重な資源、それは一体……？

答えは、日本なら蛇口をひねれば

まさに湯水のように噴き出してくるあの「水」である。

でも、それが何故「21世紀の石油」に？ また、日本は本当に水大国なのだろうか？

そんな水にまつわる世界、日本のさまざまな話題を日本の水将軍が軽妙に斬る。

「水の星」の水事情

水の惑星と呼ばれる地球の水資源は約14億km³あります。ただし、その97.5%は海水で、淡水はたった2.5%しかありません。さらにその大半は氷河・氷山で固定され、すぐ使えない。河川や湖沼など実際に使いやすい状態の水は地球全体の0.01%に過ぎません。例えば地球の全水量を1リットルとした場合、67.5億人が使える水分はわずか0.1cc足らずと、水は大変貴重な資源なんです。

世界的なダボス会議で下された「地球の水の破産宣告」

世界規模で見ると現代の水不足は大変深刻な状況です。今年1月の世界経済の動向を討議する「ダボス会議」でのことです。麻生総理を含む世界各国の指導者たちによる世界恐慌や金融危機についての議論がなされ、その模様はマスコミを通じて全世界へ発信されました。

しかし報道されないところで、世界70以上の主要河川の流量減少や枯渇など、このままのペースで人間が水を使い続けると2025年までに世界で55億人が日常生活に支障を来すという「実質的な水の破産宣告」も報告されました。今、世界では、水はかつての石油よりも投資価値のある資源になるというのが常識となりつつあります。国連の調査によると、世界で安全な水を受容できない人は約11億人、

トイレがないなど非衛生的な環境にある人が25億人と試算されています。ただ、お金である程度対処可能な先進国や中国などの新興国はまだいい方で、特に厳しいのは開発途上国です。南アジアの国々などでは、し尿処理設備の未整備による下痢や感染症の蔓延により、毎日5千人近い児童が亡くなっています。また、安全な水を確保するために毎日往復4時間の水汲みに追われるアフリカの子供たちは勉強や労働の時間がとれず、水による貧困スパイラルに陥っています。水不足は日々の生活だけでなく、人間の一生のさまざまな面に負の要素を蓄積していくんです。

日本の水は自転車操業状態

蛇口をひねれば、飲食店に入れば、当たり前前に安全な水が出る。そんな今の日本も将来的に「昔は良かった」となりうる状況にあります。ここ10年ほどの日本の水供給は、年間降雨量の2~3割を占める梅雨で支えられている状態、逆にいえば梅雨がなければ日本の水は一発でアウトです。ところが現在、地球温暖化の影響から降雨の状態が高緯度に移行しつつあります。つまり今後日本に梅雨が来ない状況も十分考えられるんです。実際、インドでは既にそのような状態になりつつあります。もし、そうになったら……日本はカラカラに干上がりそうです。

水1000リットル使ってハンバーガー1個!!

目に見えない部分が多い日本の水資源、日本の水不足を数値化したものに「ヴァーチャルウォーター（仮想水：以下VW）」という考え方があります。食糧の大半を輸入に頼る食糧自給率41%の日本。その食糧が海外で作られる際、当然水が使われます。こうした他国で食糧生産に要した水を、国内生産したと仮定した際に必要な水の量を計算した数値がVWですが、それによるとハンバーガー1個でも1000リットル、牛丼だと1杯でなんと2000リットルも必要になります。

また、食糧自給率を10%上げるには、さらに日本の水資源が140億トン必要になる計算なんです。これは日本の年間の生活用水と同量です。つまり食糧自給率の改善には日本の水資源の自給率向上が避けて通れない課題なんです。

国を挙げて水に取り組む時代

今やテロや国際紛争だけでなく、水資源も国家の安全保障に関わる重要課題です。ドイツ、EU、韓国、中国ほか世界各国が真剣に水資源の確保に取り組んでいます。なかでも顕著なのが、国内水需要の50%以上を隣国マレーシアとの長期契約による輸入に頼っていたシンガポールです。きっかけはマレーシア



写真は国連会議。このほかにも、世界各国の会合、講演などに招かれている。2009年3月に開催された第5回世界水フォーラムにて。

からの「今の契約が切れる2011年以降は100倍の値段にする」という無茶な要求でした。マレーシアに水道のバルブを閉められたら人口の半分近い200万人以上が干上がり、まさに国家存亡の危機に直面する。そこでシンガポール政府は国家的な水資源創出プロジェクトに着手したんですが、このやり方が尋常じゃない。海外の研究者や外国企業を呼び集めるための研究開発援助への投資額がなんと100億円以上。その甲斐あってプロジェクト開始から5年で水の自給率70%を達成し、さらに国内にウォーターハブ（世界の水研究、水ビジネスの拠点）を作り上げるまでになっています。

日本の「水」行政元年 ～指揮者のいない オーケストラからの脱却

世界各国に比べ、日本の水問題への対応はかなり出遅れていました。大きな要因は行政上の問題です。日本の行政で水に関わる省庁は全部で13にもわたり、それが縦割りの、要するにバラバラな動きで……まるで「指揮者のいないオーケストラ」のようでした。これでは今後迎える地球的な水の課題や効率的な水資源管理への対処は不可能です。

そこで昨年末に国家レベルのプロジェクト「水の安全保障戦略機構」が発足されました。この機関は森元首相を最高顧問に、私を含め政産学民の幅広い分野のメンバーで構成されています。総理大臣へ直接意見をすることも可能で、国や民間の事業・研究を統合する動きを、まさに指揮する役を担っています。この中で「チーム水・日本」という国内外の水問題に関する個別のチームが生まれ、現在は26チームが活動中です。

日本の水ビジネスに 勝機はあるか？

今、世界各国の水不足を解消しているのは通称「水メジャー」と呼ばれるグローバル企業で、水循環に関する一切の事業について国・自治体を代行する能力があります。特に強いのは水ビジネスで世界の上下水道民営化の6割を占めるフランス系のスエズ社、ヴェオリア社です。一方、日本の世界でのシェアは1%程度に過ぎません。

でも、海水の淡水化に用いられる逆浸透膜は日本の商品が世界シェアの70%以上を占めています。要するに世界の水ビジネスで勝つには技術力だけではダメなんです。水に限らず、海外の大規模ビジネスは国家ぐるみが常識です。フランスが水ビジネスの覇者になったのも、シラク前大統領やサルコジ大統領



の努力があったからこそなんです。日本は今でも土農工商社会で、政治がビジネスに介入すべきではないという風潮が根強い。ただ、どんな優秀な技術を持つ日本企業も世界では一介のプライベートカンパニーに過ぎません。これでは一国の首相が営業マンを勤める他の国々には絶対に勝てない。

では日本は技術の持ち腐れかというところ、一筋の光明が！ 去る7月、水に関する150億円以上の国家研究予算が計上されました。これは日本国政史上初の快挙です！ さらに、この予算による研究は単に技術開発に留まらず、その技術をもって海外で水ビジネスを普及させるための方策まで含めた内容にするという取り決めもあります。2025年には111兆円と予測される世界の水ビジネス市場。こうした動きを継続しながら世界水メジャーのスキマを狙う戦略的展開を行えば、日本の水ビジネスは海外でもっと伸びると思いますね。

私たちに、 今日からできること

水を大事に使うことです。節水はもちろん、水源を汚さないこと。炊事で使った水はそのまま流さず庭や鉢植えに撒く。また、見逃しがちなのがVWです。現在日本国内の年間食料廃棄物（食べ残し）は2000万トン。VWに換算すると240億トンで、国民1人当たり1日換算では500リットルにもなります。水を守るには食べ残しをしないことも大切だということを、ぜひ知っていただきたいですね。水は私たちの命ですから……。

Text by : 山石イヒロ



昨年の2月に出演したNHK「クローズアップ現代」の放送後に記念撮影。